

ネットワークコミュニケーション
第9回：CMCとグループワーク

2006年秋学期
担当：加藤文俊
121106

アイデンティティの問題

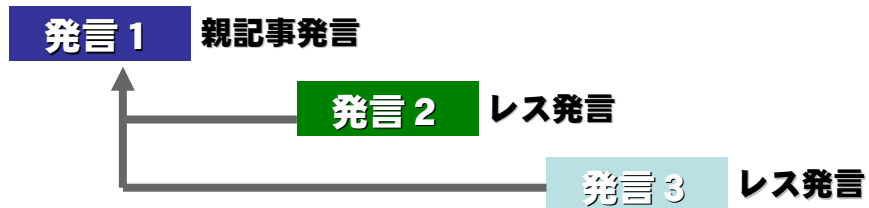
2|36

- **多重体としての人格**
- **ドメインへの帰属意識**
- **ある人格から別の人格へとストレスなく移行できるかが問題**

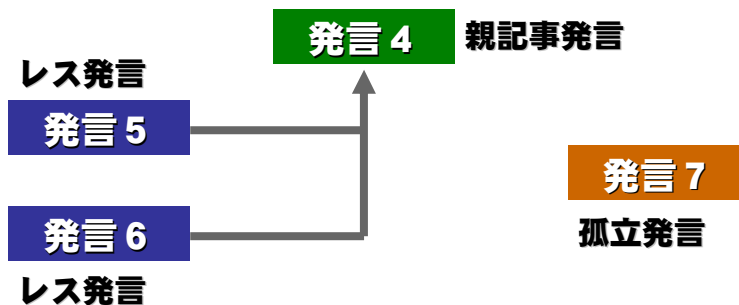
- ネットワークコミュニケーションの理解
 - コミュニティの凝集性（つながりの強さ）
 - コミュニケーションの活性度
- 操作可能性/比較分析
- 指標化
 - ネットワーク分析
 - 可視化の問題

- ネットワーク上の発言と
 - たとえば、北山（2003）「コミュニティを計量する」人工知能学会誌, 18(6)
 - 親記事発言
 - レス発言
 - 孤立発言
 - 平均レス長

■ メールの件名を基準に指標化



■ 平均レス長 = レス発言数 / 親記事発言数



メッセージの流れ

7|36

	Group I (8)	Group II (5)
親記事	66 (21.2)	185 (19.1)
レス	127 (40.7)	561 (58.0)
孤立	119 (38.1)	222 (22.9)
Total	312 (100)	968 (100)
平均	1.9	3.0

keio university fklab

CMCの機能

8|36

- Ref. Kato (2003); Tachibana, et. al. (2004)
- 提案
- 分析
- リクエスト
- 経過報告
- 情報提供
- ひとりごと
- 質問
- こたえ

keio university fklab

メッセージのタイプ

9|36

	Group I	Group II
提案	46 (14.7)	57 (5.9)
分析	57 (18.3)	189 (19.5)
リクエスト	11 (3.5)	43 (4.4)
経過報告	117 (37.5)	375 (38.7)
情報提供	3 (1.0)	5 (0.5)
ひとりごと	11 (3.5)	85 (8.8)
質問	20 (6.4)	53 (5.5)
こたえ	47 (15.1)	161 (16.6)
Total	312 (100)	968 (100)

keio university fklab